

橋渡し研究支援推進プログラム

平成21年度補正予算： 1,200百万円
平成21年度予算額： 2,400百万円
(平成20年度予算額： 1,750百万円)

【概要】

医療としての実用化が見込まれる有望な基礎研究シーズを有している大学等を対象に、それらのシーズを着実に実用化させ、国民の医療に資することを目指し、開発戦略や知財戦略の策定、試験物の製造などの橋渡し研究の支援を行う機能を拠点的に整備・強化するとともに、これらのシーズに対し、拠点を活用した公的研究費による橋渡し研究を推進。

【現在の課題】

○各拠点において、人材の確保・登用・育成等に努めているものの、大学等が自ら医師主導治験を実施しうるためには人材面、設備面において必ずしも十分ではない

○大学等における基礎研究により生み出される有望なシーズの中に、研究資金が不足しているためにステージアップできず、研究開発が停滞しているものが散見される

総合科学技術会議による指摘事項

各拠点に対して橋渡し研究を支援する機能の格段の拡充を図り、国際競争を勝ち抜く体制整備を行うことが喫緊の課題

【平成21年度の取組】

①支援設備の充実強化

各拠点に整備している細胞調製施設(CPC)等を、薬事法に基づく品質管理等に関する基準(GMP・GLP基準)に準拠したレベルで整備・維持

②人材の強化

各拠点において、管理・統括医師、研究開発に精通したプログラマナー、データマネージャ、薬事専門家等を充実

③研究費の措置

大学等における基礎研究により生み出される有望なシーズに対し、本プログラムで整備している拠点を利用して橋渡し研究を行っていくための公的研究費を措置

【支援拠点強化イメージ】

橋渡し研究支援機関(7拠点)

【札幌大(北大、旭医大)、東北大、東大、京大、阪大、先端医療振興財団、九州大】

橋渡し研究

③研究費の確保

蓄積している有望なシーズは百数十件(各拠点へのアンケート結果)

シーズ



補正予算
12億円

厳正な選定

①支援設備の充実強化
CPC・製造施設等の整備

支援設備



厳正な絞込み・
重点化

人材



②人材の強化・育成

管理・統括医師、プログラマナー、データマネージャ、薬事専門家等の配置・育成

企業へのライセンスアウト、
治験
(厚労省・経産省が支援)

医療として
定着

